

誰もが安心
して暮らせ
る町づくり
をめざして

名北福祉会 広報誌

2022 9 Sep No.58

みんなの夢

2022年9月1日発行（年3回）

発行所／社会福祉法人名北福祉会

発行人／黒川 富子

〒462-0807 名古屋市北区御成通 3-20-4 TEL:052-910-3066 FAX:912-5188 HP:<http://meihoku-fukushi.org/>

町北ホーム
ゆうやけ

いつもなかよし



めいほく
ホーム

制限があっても
楽しむぞ!!



友の家ホーム
いっぽ

DVDを
ネットで注文



障がい部

とっておきの一枚

のびのび
クラブ

お買い物
のお手伝い



めいほく
作業所

「いろとりどりの
なかまたち」



めいほく
友の家

「THE 友の家」



めいほく
鳩岡の家

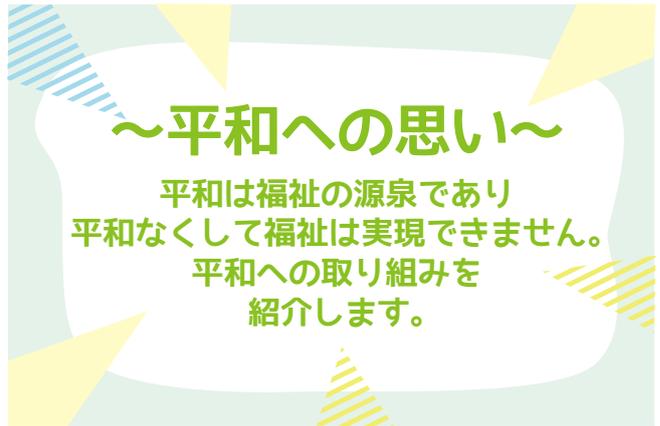
コロナも傘で
防げれば
いいのに



わくわく
安井の家

お散歩コース
神社で一休み





◇平和へのとりくみ◇

めだか保育園



めだか保育園では毎年8月に『平和つてなあに?』とみんな考えます。

『へいわとせんそう』の絵本は、様々な人物や場所の「平和」と「戦争」の様子が見開きで対照的に描かれています。「せんそうのきは、おはながかれちゃってるね…」「なんだかくろいね…」と子ども達…一方、「みかたのかお」「てきのか



お」や「みかたのあかちゃん」「てきをあかちゃん」は殆ど同じ絵になっており、「あれ?」「おなじかおだね」と呟きます…。保育士も「そうだね。敵も味方も同じ人間なんだよね」「世界中のみんなが同じように笑って平和になれるといいね」と語りかけます。世界中が平和になりますように…。



◇全職員研修◇



全職員研修会としてウクライナでの戦争から「平和について考える」を6月に開催しました。

テーマ 「日本を戦争する国にしてもいいですか」～憲法9条を生かし、平和外交をした方がいい理由～

講師 矢崎暁子氏（オニオン法律事務所・弁護士）

研修感想1
めいほく共同作業所

埜 野奈

ウクライナの侵攻が始まってから日本でも軍事費倍増や核兵器保有をなどの世論の変化など戦争へ勇み足になっているなど感じてくるなかでこの研修で改めて戦争の怖さを学ぶ機会となりました。

「あいされん」の平和学習会にも参加しましたが、それとはまた違い戦争をさせないための内容で、平和的外交の具体的な内容を聞く機会となり、私自身も平和的外交が正しいとは思っていても少し？なこともありとても学びになりました。

戦争からはなにも生まれません。ロシアのウクライナ侵攻は全世界からNOをつきつけるべきです。

今日本が平和だからこそ私達の仕事も成り立ち、子ども達・高齢者・障がい者が福祉サービスを受けることが出来ています。

原水禁世界大会にも参加し、改めて核兵器の怖さも学び、平和ボケにならず、平和な日本を残すためにも戦争反対の声を上げ続けていきたいです。

研修感想2

ヘルパーステーションそら

中森 佑香

ロシアとウクライナの戦争は気が付けば4か月が経過しています。毎日、刻一刻と状況は変化し、多くの市民が必要としている支援を受けられず、食料が足りず、命が脅かされている日々、今まで当たり前だった日常が無差別に壊され続けていく終わりのない時間を過ごすことは、想像をはるかに上回る不安な日々でしょう。

今回の研修では、政界の情勢から、日本でも「戦争は起きない」という保証のない制度がすでに作

られていることを分かりやすく理解できました。たくさん情報がいっぱい交うこの情報社会の中で、正しい情報を見極め、事実を知ることから始めていくことが大切だと思います。

福祉の充実が平和につながります。危機感を強め、私たちの声を平和につなぎ、一日でも早く、戦争が終わることを願います。

◇平和行進に参加◇

核廃絶を求めて

6月5日上飯田・平安通交差点でスタンディングに参加しました。

第二めいほく保育園

下田 彩乃

「平和のバトンをつないでいきたい」

職員として今回初めて平和行進に参加しました。当日は子どもたちやお母さん・お父さんたち、多くの方が参加され、アピールをしていきました。

スタンディングでは、様々な立場の方の平和への訴えを聞き、改



めて「毎日過ごすことができていく日常は当たり前ではないのだな。争いではなく話し合いで和解決し、戦争も核兵器もない、みんなが安心して過ごせる世の中でありたいな。」と強く心に感じました。

多くの人と一緒に集まって平和について考える機会は貴重で、子どもたちの未来に繋ぐ取り組みになったと感じました。

私自身が子どもの頃に戦争の恐ろしさを伝えてもらったように、今度は私が今の子どもたちに平和の大切さを繋いでいきたいと思います。

◇戦争体験談◇



デイサービスの利用者の方たちは、時々戦争の話がされます。デイサービス東町の利用者の方より、戦争体験談をつかいました。

「かぼちゃ畑の中を逃げまどった」

戦闘機が飛んできて、大きな防空壕に家族全員が入った。近くに人がいれば招き入れた。空襲警報のサイレンが鳴ると、家から飛び出して、赤ん坊を抱き、妹の手を引いてカボチャがごろごろしている畑の中を逃げた。戦闘機が低空飛行で頭上をかすめて行った。子ども、年寄りしかいなかったから、逃げまどっているのを面白おかしく見ていたのだと思う。大人たちは焼夷弾による火を消さなければいけないだったので、町に残った。小学4年生の頃の話。

(三重県に疎開)

「もう逃げなくてもいいのだ」

戦闘機が頭上を通る音はなんとも言えない音で怖かった。夜も怖

かった。灯りが外に漏れないように、雨戸を全て閉めて、照明には風呂敷をかけて暗くしていた。

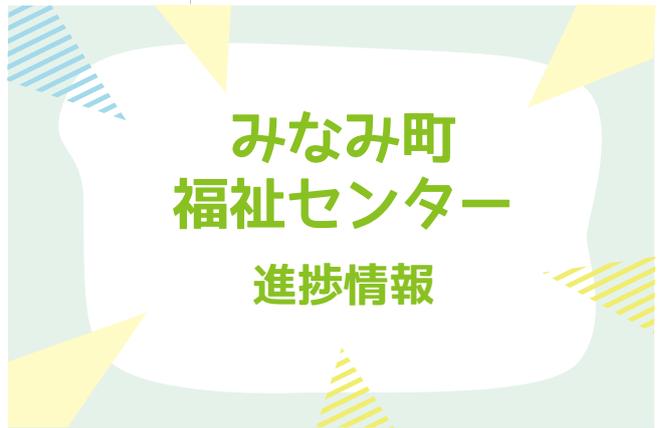
物不足、食糧難なんでも我慢、我慢だった。兵隊には最敬礼をし、学校に行けるのは兵隊のおかげだと教わった。兵隊をたたえる軍歌もあり、今思えば軍事教育だったのだと思う。終戦の日は、区長の庭に集まって玉音放送を聞いた。大人たちが「日本は負けたんや」と教えてくれた。その時「もう逃げなくてもいいのだ」と思った。

(静岡でのこと)

「絶対に戦争をおこしてはいけない」

戦争を二度と起こさないために、こういった体験を後世に伝えていくことが大切だと思う。ウクライナの戦争について難しい事は分からないが、子ども達は親の言う事を信じるしかない。絶対に戦争を起こしてはいけないと思う。と話して下さいました。





みなみ町福祉センター着工

今年の5月から、みなみ町福祉センターの建設工事ははじまりました。ウクライナの戦争等で原材料費の高騰により、当初の予算での建設が難しくなりましたが、すべての事業を2023年4月開所に向け準備を進めています。

建設に向けてのとりくみ

6月「地域交流会」開催。

茶食ばちばちの職員、憩いの家を利用していただく方々、地域貢献部



員などが集まり、交流と「福祉センター交流スペース」に期待することを意見交換しました。

◎「茶食ばちばち」、「居酒屋ばちばち」は、地域の方が来て、もうからないけど繁盛しているよ。

◎高齢者のたまり場「憩いの家」は、十一年続けてきたが、6月末で閉所することになった。

◎「学習支援されている方」は、子ども、外国にルーツのある方、大人になって学び直したい方など、67名にもなり手狭になっているので広げていきたい。

と様子が報告され交流しました。

地域の方が気軽に立ち寄れる場所にしていききたいと思っています。

「交流スペース」を親しみのある名称にしようと募集しています。

**高齢部職員
めいほく保育園で実習**



みなみ町福祉センターの合築であるめいほく保育園とのかかわりの一つとして高齢部の職員がめいほく保育園で実習しました。



「子どもたちの気持ちを切り替えていく姿をみて、すぐ大人が声をかけるのではなく待つことの大事さを知ることができた。」などの感想がありました。

保育園と高齢施設の合築のよさを活かしたかわりをつくっていききたいと思います。

建設資金づくりにむけて

高齢部の職員が他の分野の職員会へ出向き、みなみ町福祉センターに小規模多機能事業所やグループホームが実現できることへの思いを語り、建設資金寄付をよびかけました。

はじめでの経験で緊張したとのことでしたが、「高齢部の職員から直接思いが聞けてよかった。」との声がありました。

資金づくりでは、各分野、飲み物、カプトムシ、野菜、あられ販売等と工夫して取り組んでいます。



2022年度 法人事業・会計 報告

今年度も、施設ごとに集まり、リモートでの事業報告会を開催しました。

法人全体

2021年度事業報告

特徴的な点は、

- ① コロナ禍2年目でのとりくみ
- ② 引き続き工夫しながら日常の活動に取り組んできました。
- ③ リモート会議、研修も定着してきましたが、対面での会議の大

切さを感じ、配慮して行ってきました。

② 「みなみ町福祉センター」 2023年4月開所実現に

◎建設委員会やプロジェクトでの検討、ニュースを発行して様子を知らせてきました。

③ 第5次中長期計画策定にむけ検討してきました。

◎各部で第4次中長期計画のまとめを行い、第5次中長期計画をたててきました。

④ 働きやすい職場づくり

◎賃金や手当の見直しなど改善にとりくみました。

⑤ 法人応援団を増やすとりくみ

◎法人だよりの発行、ホームページ充実、支える会会員呼びかけを行いました。

⑥ 地域貢献の取り組み

◎茶食ぼちぼち（喫茶店）、お助けクラブ、憩いの家、やだカフェ（認知症カフェ）、子ども食堂（フードステーション）をコロナに配慮して行ってきました。

2022年度法人事業計画

〈重点課題〉

◎第5次中長期計画スタート

◎2022・6～2027・5（5年間）

◎計画を確実に実現するため責任者を決めすすめていきます。

◎みなみ町福祉センター来年4月開所に向け準備していきます。

◎小規模多機能事業所、グループホーム、地域交流センター開始にむけ、人材確保、研修などすすめていきます。

◎障がい者グループホーム友の家ホームには（仮称）来年4月開所

◎1年遅れそうでしたが、予定通り今年度建設となりました。開所にむけ準備をしていきます。

◎法人財政健全化をめざす

◎障がい部はじめ各部での定員充足等で経営改善に取り組みます。

◎法人組織強化

◎法人本部、各部、専門部（人材育成、人材確保、地域貢献、広報）の充実

◎各施設の実践の充実

2021年度決算について

法人全体の資産は、31・46億円、純資産は、22・85億円となり微増となりました。自己資本比率は、



高いほど経営は安定性を表す数値ですが、72・6%でした。昨年との比較では微増です。

定員充足で赤字解消、運営資金積立金増など。経営改善にむけ努力していきます。

保育部

昨年度は、新型コロナの感染でどの園も休園を経験しました。感染対策をしつつ、子どもたちの活動は豊かに、また保護者との、小集団での対面やオンラインでの懇



談会、時差で分かれて行事を行うなど、子育てを一緒に取り組む工夫してきました。質の向上のための職員研修も同様で、オンラインを活用した研修で学びあいました。

今年度もコロナは続きますが、「保育の中の豊かな活動」「保護者との対話」「職員同士、話し合いながら保育を作ること」を大事にしていきます。職員研修はオンラインも活用しつつ、「対面」の



よさがあるので、他園視察や学習会など感染状況を見て対面実施をめざしていきます。各園が異年齢保育の中で、「できる・できない」ではなく「ありのままの自分を安心して出せる暮らし」を大切にしています。そのために「目の前の子どもの姿の中にある、子どもの願い」を理解していくこと、保育を語り合う職員の連携を大事にし、今年度は実践集を作成していきます。そして、保育を振り返る余裕は、配置基準が改善されなければできない！戦後70数年変わらぬ配置基準の改善の運動を、実らせていきたいと思っています。

高齢部

「終の住家」の実現

高齢部では「終の住家」をつくる事を目標に掲げ、事業をすすめてきました。建設委員会、南町プロジェクトを立ち上げ、建物の図面、実践したい介護内容、保育園との交流等の話し合いを重ねてきました。そして、2023年4月に上飯田のめいほく保育園の隣に「グループホームめいほく」と「めいほくの家（小規模多機能型居宅介護）」を開所する事となりました。新規事業に向けて積極的に職員を採用し、初任者研修講座の受講、他施設・他分野での勤務、研修動画の活用などしています。



「コロナ禍での介護の難しさ」

2022年2月に2事業所でクラスターを発生させてしまう事態に陥りました。手洗い・消毒・換気は徹底していましたが、人との接触を避ける事ができない介護現場の現状から、感染が拡がってしまいました。今回のクラスターを受け、より一層の感染対策を講じました。ご利用者さんにとっては制限が多くなってしまっ点も多くありますが、コロナ禍の中でも楽しんでもらえる様な取り組みを考えてきました。

障がい部

昨年度も、新型コロナウイルスによる影響が大きかった1年でした。コロナから、障害のある仲間・家族・職員のいのち・くらし、そして仲間の生活を支える事業をどう守るかが障がい部の最大の課題となりました。特に2022年に入ってから第6波では、感染者の数や勢いも大きく増しまし



た。日中事業所でのクラスターの発生、休所中の仲間たちへの家族介護の増大、くらしの場での防護服を着用しての生活支援など、仲間も家族も職員も本当に奮闘していただきました。この根っこの背景には、医療・保健・衛生に関わる社会基盤のせい弱さが明らかにあります。

一方で、2022年度は、コロナから仲間たちを守りながらも、コロナに振り回されず、当たり前前の「働く」「くらす」ができるように、声を上げながら、新しい取り組みをしていきます。

中長期計画ともかかわりますが、障がい部として、従来の施設ごとの単位を超え、「めいほく障がい部は一つ」、そんな言葉で、結束力を作り取り組んでいきます。また地域のニーズをしつかり受け止め、新しい仲間たちを受け入れていきます。

地域生活部

2020年2月より世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症は、ウイルスが形を変え第7波の感染拡大がとどまることなく私たちの生活を脅かしています。

①地域生活部では2022年度も引き続きコロナ禍での活動を安全に丁寧にする予定です。

②地域生活部の重点課題であるヘルパー確保のために、2021年度11月に日常生活支援研修を開催しました。

名北福祉会 第8回
介護職員初任者研修
10月スタート 受講生募集

【土曜コース】
高齢者、障害者、障害児の介護や支援する職員、ヘルパーとして働くために必要な基礎的知識と技術を習得する研修です。

募集要項

期間	令和4年10月22日(土)～令和5年3月25日(土) 全22回 <small>※終開等など詳細は、HPをご覧ください。</small>
研修場	めいほく鳩岡の家 北区鳩岡町1-1-5
費用	30000円(テキスト代、資料代等含む) ※キャッシュバック制度があります。
定員	10名(先着順)
申込	受講申込書記入の上、郵送、FAX又は持参ください。 ・申込期間 令和4年9月20日(火)～ ・申込み先 ヘルパーステーション なら 研修事務局 〒462-0865 名古屋市長坂平坂町2丁目14-3 第6講義マンション 1F

ヘルパーステーションなら 介護職員初任者研修受付
平日 9:00～17:00 052-910-0712 担当/岩橋 大村

- 2022年度は年4回を目標に開催し日常生活支援事業の開設を目指し登録ヘルパー確保定着を目指します。
- ③特定事業所加算の算定継続により事業の安定を目指します。
- ④地域での生活や暮らしに生きづらさを持っている人にいろいろな資源を活用し、地域生活部の3事業所で解決していけるようにします。
- ⑤2021年4月に虐待防止委員会を創設しました。委員会、研修に取り組みます。
- ⑥他分野、他団体との連携に努めていきます。
- ⑦デジタル化に取り組み、より業務改善に取り組みしていきます。

勤続表彰

多くの職員のみなさんに永年、名北福祉会を支えていただき心より感謝いたします。



(正規職員)

20年勤続

めいほく友の家 石井克巳

めいほく保育園 畔柳早苗

10年勤続

なえしろ保育園 祝迫紀

やだ保育園 横井幸子

めいほく友の家 西村庸子

埴 佑哉

(契約職員)

10年勤続

めいほく鳩岡の家 足立 裕美

20年勤続

第二めいほく保育園 市原喜久子

10年勤続

なえしろ保育園 杉本和子

ケアプラン町南 石田恵子

勤続20年表彰いただき
ありがとうございます。



めいほく友の家
石井 克己

20年前に私が名北福祉会に惹かれたのは、めいほく保育園の隣の公園で行われていた「平和コンサート」の雰囲気でした。(今より20歳も若かった)職員さんたちがバンド演奏して、障害のある仲間たちがつどって、保育園の子どもたちと歌っておどろ、地域のお年寄りが微笑むような、そんな輪の中に加わって仕事をしたかったです。

めでたくめいほく初のグループホームの立ち上げ職員に抜擢していただきました。通算6ホーム開設に携わり、障害のある方の(未だ当たり前とは言えない)普通の地域生活づくりをみなさんと共に進められたことはとても喜ばしいです。

0から1を生み出す経験は私

にとって宝です。ただ、再び同じことはできないくらい大変でした。

20年経った今でも、当時の作業所職員のみなさんは各々施設長や相談支援専門員等として活躍されています。変わらずめいほくと一緒に働けていることに「めぐまれているなあ」と感じます。

平和コンサートのようなピースフルな活動で、またみなでつどえたら嬉しいですね！



みなみ町福祉センター建設へ
ご寄付ありがとうございます

OBや関係者の方からは、期待や励ましのメッセージも添えてご寄付が届いています。

- ◎ 地域の人がつながる場になると期待しています。
- ◎ 建設おめでとうございます。在職中は大変お世話になりました。帰省の際は見学するのを楽しみにしています。ずっと応援しています。
- ◎ 「あんきに長生き」地域に根差した福祉センターの完成を、心から楽しみに！
- ◎ 地域に根ざした活動をこれからもよろしく願っています。

応援いただき、ありがとうございます。



建設資金のためのご寄付お願いいたします

ご寄付の振込先

◆建設資金 5億円 自己資金 3億円 寄付目標 2000万円

◆寄付申込先 社会福祉法人 名北福祉会 本部

名古屋市北区御成通3-20-4 電話 052-910-3066

◆振込先 三菱UFJ銀行 上飯田支店 (普) 0062814 社会福祉法人 名北福祉会

ゆうちょ銀行 0850-8-185387 社会福祉法人 名北福祉会

1口 1,000円からお願いいたします。

●当法人は、寄付による税控除対象団体です。





組織財政

名北福祉会は、福祉三分野にとりくみの中で「めいほくがあつてよかった」といわれるよう役割を發揮していきます。更に発展させていくためにも組織強化と財政確保し、事業を発展させていきます。

①法人組織の運営強化として、組織強化（理事会、評議員会、運営協議会）（本部、各分野部、専門部、施設での組織強化）し、



保育部

コロナ禍で気軽につながりあえる場が激減したことや保育所が休

次世代育成、世代交代を視野に入れた体制づくり。

②法人の人材育成、定着にむけ、法人研修、分野部研修の計画と実施、労働環境の改善

③安定した財政基盤にむけ、法人内部、外部環境による「強み、弱み、機会、脅威」から戦略マップを作成しました。具体的な行動計画をたてすすめていきます。

園になる中、育児ストレス・不安を抱える家庭が増え安心して子育てしにくい状況にあります。保育園の子どもへの命・生活を守る役割がより明確になりました。

安心して子どもを預けられる保育園、職員が働き続けられる保育園であるために制度を改善する運動も大切になります。もう一人保育士を”の運動や公的保育を守る運動に取り組みます。

オンラインなども活用し、工夫しながら保護者の取り組みをすすめ共育を大切にします。

目の前の子どもたちを丸ごと受け止め、子どもたちから学ぶことを大切にしていきます。

どの子ども大切にされ、お互いを尊重し合う関係を作っていきます。安心安全に過ごせることを大前提に、子どもにどんな力を育てていきたいのか職員同士が語り合いながら保育をつくっていきます。実践集をつくり、ふりかえりながら子どもを深く理解する力量をみにつけ豊かな保育をめざします。



高齢部

高齢部は大きな2本の柱を軸に事業を進めていきます。

①みなみ町福祉センターでの新規事業の安定

2022年5月から「みなみ町福祉センター」の建設が始まっています。2023年4月オープンのこの新規事業を軌道にのせる事と同時に既存事業の安定を図る事が大きな目標となります。その為には、介護実践の共有、高齢部の基本方針にもある「大切にしたい介護」を次の世代の職員に受け継いでいきます。また、住み慣れた地域で暮らし続けてもらう為に、地域で信頼される事業所を目指し、病気があっても安心して暮らし続けてもらう為に、医療連携に力を入れていきます。

②低所得の方が入所しやすい施設の建設

第4次中長期計画からの目標である、低所得の方でも入所しや

すい「終の住家」の建設を引き続き目指していきます。

障がい部

第5次の中長期計画の課題は、くらしの場づくり、仲間たちの生活を支える人づくりなど、たくさんあります。なかでも日中事業所の機能分化は、この5年の焦眉の課題です。この20年以上の間、作業所作り運動の中で、4つの事業所を立ち上げてきました。この10年で外部環境や制度は大きく変わり、様々な事業所が増えました。



その中で、各事業所が異なる役割を持ちながら、特色ある事業所づくり・再編をめざしていきます。

今私たちが実現したいのは、①もっと一人ひとりのニーズに合った丁寧な支援を、②障害の程度に関わらず、利用できる事業体（「働く」ニーズにも応えたい）、③職員の特性を生かした働き方や、雇用、④障がい部の財政健全化をということです。そのため、仲間も職員も家族も、今ある事業所の枠を飛び越えて、みんなのねがいを受け止められる「めいほく障がい部」共同体で取り組んでいきます。

地域生活部

団塊の世代が75歳以上となる2025年問題、現役世代（20〜60歳）が急減する2040年問題など確実な人口問題、社会問題が想定されています。一方で、既に深刻な介護人材不足（約32万人が不足）。この先2040年は約280万人の介護人材が必要

とされ、不足人数の更なる増加が想定されています。

「住み慣れた街で、気ごころの知れた人たちと、この自分らしく、暮らし続けていきたい」という願いに添えていくことが、私たちの責務です。現在、在宅生活を支えていくヘルパー人材の不足は深刻

です。地域生活部では、ヘルパー人材を増やしていくことを最重要課題とし、名北福祉会の強みである地域密着・60年の歴史の中での人脈、繋がりを最大限に活かし、取り組んでいきます。

2022年度 役員

〈評議員（9名） 任期4年〉

富田 哲朗 廣瀬 洋子

田中 耕治 篠宮 雄二

塚本 正 伊左治 真

佐尾 和彦 近藤 守平

横井 透

橋本 琴江

山田 美重子（監事）

牧野 茂子（監事）

〈監事（2名） 任期2年〉

山田 美重子 牧野 茂子

〈理事（8名） 任期2年〉

黒川 富子 本田 たみ代

佐藤 悦弘 伊佐治 尚美

太田 輝美 光岡 ゆかり

寺西 明美 岩橋 和裕

〈運営協議会委員（30名） 任期2年 評議員9名・理事8名・監事2名含〉

正次 正男 本田 直子

菊田 道敏 水野 孝安

長尾 忠昭 中尾 安男

久田 浩一 小林 正巳

水野 達彦 仙田 田鶴子

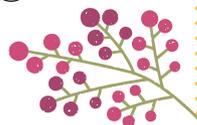
真坂 一彦 高山 健司

加藤 尚子

〈評議員選任・解任委員（5名） 任期4年〉

木村 恵美

加藤 登美



社会福祉法人 名北福祉会 決算書

事業活動収支計算書 ～利益報告書～

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位: 千円)

	本部会計	保育園	障害	高齢	地域生活	合計
【収入の部】						
就労支援事業収益	0	0	10,801	0	0	10,801
運営費・支援費・補助金収益	1,872	928,014	606,718	169,359	182,015	1,887,977
利用料収益	0	0	0	0	0	0
寄附金収益	5,655	0	1,032	0	0	6,687
雑収益・受取利息他	826	4,139	9,318	1,475	78	15,836
事業収益合計	8,352	932,153	627,869	170,834	182,093	1,921,301
固定資産受贈額	0	0	400	0	0	400
借入金補助金収益(元金・利息)	0	12,335	11,731	0	0	24,066
施設間繰入金収益	24,500	0	96,973	0	431	121,903
固定資産売却益	0	0	0	0	15	15
その他の特別収益	0	0	0	0	0	0
収益合計	32,852	944,488	736,972	170,834	182,539	2,067,686
【支出の部】						
就労支援事業費用	0	0	15,069	0	0	15,069
人件費支出	5,574	766,486	522,288	137,716	87,435	1,519,499
事務費支出	10,179	56,796	52,454	18,934	10,670	149,033
事業費支出	736	60,880	53,950	14,384	3,025	132,974
減価償却費	378	47,471	42,609	6,926	1,088	98,472
徴収不能額	0	0	0	0	0	0
国庫補助金等特別積立金取崩額	0	-28,304	-22,204	-2,733	-217	-53,457
支払利息	0	2,442	2,186	0	0	4,627
その他費用	0	1,037	4,850	793	0	6,680
事業支出合計	16,867	906,809	671,203	176,020	102,001	1,872,899
基本金組入額	0	0	0	0	0	0
国庫補助金等特別積立金取崩額	0	0	0	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額	0	10,817	10,265	0	0	21,083
施設間繰入金支出	0	2,500	13,390	9,000	97,013	121,903
固定資産売却・処分損	0	0	0	0	0	0
その他の特別損失	0	0	0	0	0	0
支出合計	16,867	920,126	694,859	185,020	199,014	2,015,885
当期活動収支差額	15,985	24,363	42,113	-14,186	-16,474	51,801
【繰越活動収支差額の部】						
前期繰越活動収支差額	241,440	209,054	268,198	77,726	28,165	824,583
積立金取崩額	0	0	0	0	0	0
積立金積立額	54,006	0	0	0	0	54,006
次期繰越活動収支差額	203,419	233,416	310,312	63,540	11,691	822,378

貸借対照表
令和4年3月31日現在

(単位 円)

現金預金	180,862,901	未払金	31,269,823
未収金	189,058,676	その他の流動負債	183,162,493
たな卸資産	1,465,150		
その他の流動資産	83,799,501		
流動資産合計	455,186,228	流動負債合計	214,432,316
基本財産土地	316,051,568	長期借入金	551,633,000
建物	1,506,617,905	退職給与引当金	94,608,640
法人内長期貸付金	0	法人内長期借入金	0
その他の固定資産	327,113,673	固定負債合計	646,241,640
積立預金	446,541,247	負債合計	860,673,956
退職給付引当資産	94,608,640		
固定資産合計	2,690,933,033	基本金	242,741,038
		国庫補助金等特別積立金	773,784,861
		その他の積立金	446,541,247
		次期繰越活動収支差額	822,378,159
		資本合計	2,285,445,305
資産合計	3,146,119,261	負債・資本合計	3,146,119,261

すべての子どもが必要な保育を受けられるように！
 予算の大幅な増額と保育士の増員を！
2022年度保育の国会請願書名がスタートしました！

保育は子どもの日々の暮らしを守り、子どもの豊かな育ちと子育て家庭を支えるためになくてはならないものです。その大切さはコロナ禍の中で改めて重要視されたにもかかわらず、抜本的な改善はされていません。特に、保育士の増員を求める現場の声には背を向けたままです。

政府は2023年度から「こども家庭庁」を設置し、子ども関連予算の倍増を目指すと言明しています。いまこそ、保育予算を大幅に増額し、保育所等の環境・条件の抜本的な改善を求めます。

署名のご協力をよろしくお願いいたします。

※署名は同封の返信封筒にて返送をお願いします。

70年以上改善なし！—保育士配置基準
 国の定める保育士の配置基準
 0歳1歳は1歳14歳15歳
 1999年 10:1
 2004年 8:1
 2011年 6:1
 2021年 3:1
 30:1
 70年以上変わらず
 50年以上変わらず

**保育・子育て予算が少なすぎる！
 —OECD諸国平均の3分の1の低水準**
 数字的保育への支出のGDPに占める割合
 OECD諸国平均 30.1%
 日本 10.1%
 韓国 20.1%
 中国 15.1%
 米国 18.1%
 英国 16.1%
 フランス 17.1%
 ドイツ 19.1%
 イタリア 14.1%
 日本 10.1%
 2021年度 署名活動開始から2022年度末までの署名活動期間中に署名された方々の数です。

**子どものために声をあげよう
 —願いを実現するために**
 保育は、子どもの日々の暮らしを守り、その発達を促し、子育て家庭を支えるために不可欠な仕事です。しかし、保育現場は人手不足が深刻化を続けています。
 一刻も早く保育士を増員するなど、基準・条件の抜本的な改善が必要です。
 この「願いや「声」を響かすべく、国会や社会に示し、子どものための改善を表現しましょう。

子どもたちのために！ 声はあげよう！ 願いを届けよう！
 署名にご協力ください。 署名用紙
よりよい保育を！実行委員会
 連絡先：全国保育団体連絡会
 〒102-8577 東京都千代田区千代田2-4 TEL: 03-6265-3171
 2022年度署名

未経験者
 歓迎

介護スタッフ募集中！

2023年4月オープンの
 新規事業で一緒に働きませんか？



場所
 北区上飯田
 南町

事業内容

- ・グループホームめいほく（認知症対応型）
- ・めいほくの家（小規模多機能事業所）

お気軽にお問合せ下さい！

名北福祉社会高齢部 052-795-3186 担当：太田



性別・年齢不問！短時間からでも大丈夫！資格所得支援制度あり！

助けの必要な方の支援に入りませんか？

サービス地域：北区、守山区

お問合せ：ヘルパーステーションそら 052-910-0712

担当：岩橋・坂野